

の末端の血液は極度に少なくなり、血液は体内深く保留される生理反応を示すので、これが冬になると血圧が高くなる理由なのです。

老化によって血管がもろくなったお年寄りや体の弱い人の場合でも、暖房のきいた部屋にいる時や暖かな日中では多少血圧が高くなってもまず心配ありません。しかし、暖房のきいた部屋から急に戸外へ出たり、とくに夜間お手洗いに起きる時は十分気をつけなければいけません。

一般の家庭では就寝前に暖房をとめますから、室内の温度も夜中にはぐんと下がり、真冬の場合、布団の中と室温との差は30度以上にもなります。お年寄りの場合は、

起きあがると同時に丹前やガウンなどを必ずはおるようにするとか、夜中でも家全体を暖かくしておくことが大切です。稿をおわるにあたり、筆者連載の抄録の転載を快諾していただいたサンケイ新聞社、信濃毎日新聞社および神山恵三博士に対し心から感謝を致します。

文 献

青木宣治, 1963: 気候指数の試み, コスモス, 8, 22-23.

神山恵三, 1964: 気象と人間, 紀伊国屋新書.

日本生気象学会編, 1968: 生気象学, 紀伊国屋書店.

≡≡≡支部だより≡≡≡

北海道支部気象講演会の報告

北海道支部では、一般の方々を対象にして、気象知識の普及及びその利活用を図ることを目的とした気象講演会を、道内各地において順次開催している。今回函館市の後援を得て、下記のような講演会を開催した。

記

主 題 気象災害とその予防

日 時 昭和56年10月16日 13.30~16.30

会 場 函館市亀甲福祉センター

講演題目及び講師

1. 最近の異常気象と北日本の冷害
和田英夫 (北海道教育大学)
2. 火災と気象
金田健治 (函館市消防本部)
3. 強風の原因と災害
三本木 亮 (函館海洋気象台)